



令和5年12月26日  
改定 令和5年12月28日

関係者 各位

一般財団法人  
日本モーターサイクルスポーツ協会

## 2024年度 国内競技規則書 ロードレース規則変更点のお知らせ

はじめに、2024年MFJ国内競技規則は、WEBサイト版の提供となります。  
競技参加に必要なルールを、お手持ちのスマートフォンやPC、タブレットなどの端末に対しも、PDF  
閲覧に加え、PC等の保存、プリントアウトしてご覧いただけます。  
WEB版の規則書は、新規則の制定および変更点は、「赤字」で記載されています。

この案内では、新規則、変更点は、「赤字」削除された箇所は「赤字の取り消し線」で表記しています。

アクセス先：<https://rules.mfj.or.jp/>

### 1 ロードレース競技に関する変更点

#### 1) 走路について 該当規則：付則3 サーキット走行に関する規則

##### 2 定義

2-3 **ライダーは、常に走路を走行しなければならない。走路とは、走路両端部を定めている白線部分を言う。**

##### 3 走行中の遵守事項

3-2-2 **ライダーは、走路を故意に外れることはできない。危険回避等のやむを得ない場合を除き、走路外走行は認められない。縁石（ダブル縁石は除く）はコースの一部である。ダブルカーブ、およびコーナーとコーナーの間や外側にある緑色に塗られたアスファルト部分はコースの外側となる。**

**走路を外れた車両のライダーは、走路に復帰することはできるが、安全に復帰することとその走行が有利に働かないようにしなければならない。**

コースにおける走路と走路外走行を明確にした。コース上であえて白線のひかれていない部分および点線部分は、白線の仮線として判断を行う。

#### 2) 公式シグナル 該当規則：付則4 ロードレース競技規則

##### 4-1-3-1 黄旗およびイエローライト：

ライダーは、いつでも停止できるように準備していなくてはならない。

緑旗が振動提示される地点まで、**追い越しは禁止され転倒コースアウトも含み罰則の対象となる。追い越しは禁止される。**

4-1-2-5 レッドクロス（赤い斜め十字の入った白旗）と赤ストライプ付黄旗  
当該旗の提示付近のコース上において雨が降り続けていることを示す。  
この旗はポストにおいて同時に振動提示される。

黄旗に関する内容は、2023年に実施されていたとおりの運用方法を明記した。  
レッドクロス旗の規則表記はFIM規則に合わせて、赤ストライプ旗との併用運用はしない。

### 3) 装備（ヘルメット、レーシングスーツ、エアバッグシステム）：付則4 ロードレース競技規則

#### 10 ライダーの装備

##### ① ヘルメット

10-1-2 MFJの公認ヘルメットには、MFJ公認マークが貼付されている。

※MFJ公認マーク <2022規格>



2022規格以前の公認マークおよび使用期限については、  
巻末ページを確認ください。

**推奨** ヘルメットは、使用頻度や保存状態で経年変化に差があるが、使用開始後10年を経過した製品は使用しないことを推奨する。

##### ② レーシングスーツ

10-2-1-2 MFJが公認したレーシングスーツには、MFJ公認マークが貼付されている。

※MFJレーシングスーツ公認マーク <2022規格>



2022規格以前の公認マークおよび使用期限については  
巻末ページを確認ください

##### ③ エアバッグシステム 予告事項

10-2-1-7 エアバッグ式プロテクション

18歳以下の選手に対するエアバッグ使用義務

18歳以下の選手は、MFJに登録されているエアバッグを使用（着用）しなければならない。

車検時にエアバッグがMFJ登録製品であることを確認する。

車検時に複数のエアバッグ（仕様または型式違いでも可）に登録することも認められる。

※18歳以下とはレースウィークの予選日時時点で満18歳以下の者をいう。

※適用はMFJ公認競技会（全日本選手権・地方選手権）。

承認競技会は主催者の特別規則による。

##### 予告事項

2025年よりエアバッグ使用義務年齢が改定される。

・ 22歳以下の選手に適用される。

・ 55歳以上の選手に適用される。

- ・ ヘルメットに関しては、推奨事項の追記を行った。
- ・ エアバッグシステムの適用年齢拡大については、エアバッグシステムおよびレーシングスーツの購入・買い替えなどの準備を含めて、11月29日付けにてMFJのホームページにて公示されています。[2025airbag予告事項\\_20231128.pdf \(mfj.or.jp\)](#)

「エアバッグMFJ登録製品」[MFJtouroku\\_airbag\\_20231201-1.pdf](#)（2023/11/30現在）を確認ください。

なお、「エアバッグMFJ登録製品」リストは新製品申請追加ごとに更新されますのでご注意ください。

#### 4) 予選 複数決勝レースの予選基準タイム :

付則4 ロードレース競技規則 15-2-3

15-2-3 公式予選では、ラップタイムが測定される。この測定で、予選基準タイムに満たない者はたとえ定員内であっても決勝レース出場資格を与えられない場合がある。  
ただし、予選通過基準タイムに満たない選手についても過去の成績を考慮した上で、審査委員会の判断で出場を認めることができる。  
・予選通過基準タイム  
～ 中略 ～  
予選が2回以上ある場合、予選通過基準タイムはどちらかの予選で上記に示すタイムをクリアすれば、通過基準タイムを満たしたものとする。  
**1回の予選で、複数の決勝グリッドを決定する場合は、ベストタイムを複数の決勝に対する予選基準タイムとする。**

複数決勝レースで1回の予選でグリッドが決定する場合の予選基準タイムは、各々ライダーのベストタイムが選択される。

#### 5) スタートディレイド 再開手順に対する表示ボードについて

: 付則4 ロードレース競技規則 17-4-11-1 付則5 全日本ロードレース選手権 17-2-12-1 ～17-2-12-2

17-4-11-1 スタートディレイドの原因となったライダーとマシンはオフィシャルの指示に従い、ピット作業エリア、またはコースサイドの安全な場所に速やかに移動させられる。  
マシンの移動が完了後、スタート手順は「ウォームアップラップ開始**30秒前**」ボードの提示から再開され、スタートを受け持つオフィシャルにより、グリッド上のマシンの整列と安全が確認できた時点で、追加のウォームアップラップ1周が開始され、レースは1周減算となる。  
~~-(1分以内の再開をめざし、「30秒ボード」は提示しない)-~~

17-4-11-1-2 スタートディレイドの原因となったライダーとマシンが「ウォームアップラップ開始1分前」ボードが表示される前にピットレーンへ移動し、グリッドからスタートしたライダーの集団がピットレーン出口を通過した時点から10秒間の内に再スタートが可能な場合は、ピットレーンからウォームアップラップを開始し、レースもピットスタートとする。

17-4-11-2 グリッドを含むコース上に問題があった場合、もしくは速やかなスタート手順の再開難しいと判断された場合は、「**エンジンストップボード**」が提示され、オフィシャルの指示に従いメカニックはグリッドへの立ち入りが認められ、全てのライダーとマシンはピット前作業エリアに戻される。ピットボックス**内で前作業エリアでは、全ての作業、給油およびタイヤウォーマーの使用が認められる。**  
新たなスタート時間と周回数は公式通知にて発表される。レースはサイティングラップから再開され、再スタートは**24 赤旗中断されたレースの再スタート 24-1-8 クイックリスタート**の手順で行われる。

#### ① スタートディレイの再開運用

- ・「ウォームアップラップ開始1分前」→「ウォームアップラップ開始**30秒前**」ボードに変更

- ・ 速やかにスタートできない場合の「エンジンストップボード」の運用

① ピットボックスの作業について

スタートディレイドの速やかに再開できない時、赤旗中断中、予選中においてボックス内の作業が認められる。

② ボックス内の作業が認められない場合：決勝、スタート進行中

## 6) 罰則 該当規則 付則 4 21 レース中およびプラクティスセッションの行為

21-1-2-1 当該ライダーが有利となるショートカット等（コーナー、シケイン等のコース外を走行し、自分に有利となる）が発生した場合：

予選中：当該ラップタイムの抹消

決勝中：ライドスルーペナルティー

**最終ラップ等**ライドスルーペナルティーを与えられない場合、レース結果に30秒のタイム加算とする。

- ・ ライドスルーペナルティーを与えられない場合、「最終ラップ等」の条件を削除し、状況に応じて対応できるように変更された。

## 7) 安全対策の強化

該当規則 付則 4 17 スタート方法 17-4-9-2

21 レース中およびプラクティスセッションの行為

17 ウォームアップラップ開始

17-4-9-2 スタートオフィシャルの振動提示するグリーンフラッグの指示で、ライダーはスタートし、1周走行する。 **ウォームアップラップの開始時は、すみやかにスタートしなければならない。**

21 レース中およびプラクティスセッションの行為

### 21-6 スタート練習

**コース上でのスタート練習は禁止される。スタート練習位置は大会特別規則、公式通知で示された指定場所においてのみ許可され、それ以外でのスタート練習は行ってはならない。**

### 21-7 レース・プラクティスセッション終了後の行為

**ライダーは、後続ライダーの安全を確保するためチェッカーフラッグ提示後コントロールラインを通過した以降に不用意な急減速等を行ってはならない。**

## 2. 全日本選手権・MFJ カップ JP 2 5 0 選手権に関する変更点

### 8) 全日本選手権 基本的なスケジュール 該当規則：付則 5 開催内容と競技会の基本スケジュール

#### (1) 特別スポーツ走行

全日本選手権の公式日程以外に下記の大会においてスポーツ走行が設定される。

3-3-1 全日本選手権は下記基本スケジュールに基づき開催される。

月～木曜日：当該大会にエントリーしている選手の走行は禁止とされる。

ただし、特別な事情によりMFJロードレース委員会が認めた場合は、ART走行または特別スポーツ走行が認められる。

大会	特別スポーツ走行日	クラス
第1戦 鈴鹿2 & 4大会	3月7日※	JSB1000
第2戦 もてぎ大会	4月11日	全クラス
第4戦 筑波大会	6月14日	J-GP3
第8戦 MFJGP鈴鹿	10月24日	全クラス

※第1戦 特別スポーツ走行、ART走行および大会期間は、2023年ロードレースライセンス所持者のみ参加できる。

該当規則：MFJカップ 付則5 3項 3-6-5 特記

3-6-5-1	第4戦 オートポリス大会は9月5日（木曜日）に特別スポーツ走行が設定される。
---------	--

## (2) 第1戦鈴鹿2 & 4大会の参加定員について

### 4 参加定員

4-1 全クラス最大予選組2組までのフリーエントリーとする。

ただし、第1戦鈴鹿2&4大会に限り、下記の参加資格が適用される。

- ・2024年JSB1000クラス年間チームから登録参戦者
- ・2024年JSB1000クラス年間チームからスポットエントリー者
- ・主催者またはロードレース委員会推薦

## 9) 出場料の改定 該当規則 付則5 10 出場料金

全日本選手権の出場料は、決勝レース数に応じた料金改定された。

### 10 出場料金

クラス	1大会出場料	料金
JSB1000	決勝1レース制（本体価格+消費税）	51,700円（47,000+4,700円）
	決勝2レース制（本体価格+消費税）	68,200円（62,000+6,200円）
ST1000、 ST600、J-GP3	決勝1レース制（本体価格+消費税）	40,700円（37,000+3,700円）
	決勝2レース制（本体価格+消費税）	57,200円（52,000+5,200円）

## 10) タイヤ 該当規則 付則5 22タイヤ規制

### (1) ST600 決勝2レース制のタイヤ

決勝2レース制の3セット目のタイヤの追加に関する規則の追記

22-1-3	追加タイヤ
決勝2レースの場合のみ、決勝2レース目の決勝進出者に追加のタイヤ1セット（前後タイヤ各1本）	

が認められる。

(2) ST1000 指定タイヤ 有効期限切れ 該当規則：付則5 付則6

銘柄	用途	F/R	名称	コンパウンド	サイズ
ダンロップ	ドライ	フロント	KR149	H3	120/70R17
			KR151	H2	120/70R17
		リヤ	KR133	S1	200/60R17
			KR133	M1	200/60R17
	ウェット	フロント	KR189	WA	120/70R17
		リヤ	KR405	WC	190/60R17
<b>KR405</b>			<b>WA※1</b>	<b>190/60R17</b>	

<ウェットタイヤ>

全日本・地方選手権共通 指定タイヤは、以下のとおり

リヤタイヤ	<b>KR405 (WA) は、1年間の猶予期間を終えて使用できなくなります。</b>
-------	---

3. 技術規則関連の変更点

1 1) 各クラス改定の共通箇所

① キルスイッチ

該当規則：GP 7-19、JSB 7-16-2、ST1000/ST600/JP250 7-2-2

7-16-2	スイッチ類の改造または変更も許可されるが、キルスイッチはハンドルバーのグリップを握った状態で、手の届く範囲に取り付けられていなければならない。 <b>また、キルスイッチは他のスイッチ類と明確に区別するために、市販車のキルスイッチを使用するか、変更した場合は、キルスイッチのみ赤色にしなければならない。</b>
--------	---

② チェーンローラー

該当規則：JSB1000 7-3-1 ST1000/ST600 7-3-1-2

7-3-2	メインフレームは、ガゼットまたはチューブを追加することによってのみ変更することができる。ガゼットまたはチューブを削除することはできない。 メインフレームへ部品およびステー類を取り付けるための穴あけ加工は認められる。 <b>チェーンローラーのメインフレームへの追加が許可される。(溶接加工を含む)</b>
-------	---

③ チェーンフック

当該規則：ST1000 7-3-5-4

7-3-5-4	<b>タイヤ交換時にチェーンを維持するためのブラケット(チェーンフック)の取り</b>
---------	---

付けが認められ、確実な方法で固定されていなければならない。ブラケットのすべての端部は丸められていなければならない。最大寸法は長さ40mm、スイングアーム取り面からの高さ40mm、厚さ（幅）は10mmとする。

④ チェーンスライダー

当該規則：ST1000 7-3-25 / ST600 7-3-23

7-3-25 スプロケット／チェーン

フロント（ドライブ）スプロケット、リヤホイール（ドリブン）スプロケットは、サイズと丁（歯）数および材質の変更（チタニウムは禁止）は許可されるが、取付け方法および位置は公認車両と同じでなければならない。チェーンのピッチならびにサイズと長さは変更が許可される。

チェーンスライダーの改造および変更（金属素材は禁止）も許可されるが、公認車両のリヤフォーク（リクスイングアーム）に改造無し（ボルトオン）で取付け出来ること。

1 2) GPフォーミュラクラスの技術仕様

フレームの定義

7-2-1 フレームの**基本骨格**とは以下に示すとおり、エンジンが取り付けられている部分を中心にステアリング取り付け部分と**リアフォーク（スイングアーム）**またはリアサスペンションの取り付け部を含む構造全体をいう。

1 3) ST1000クラスの技術仕様

aprilia RSV4 Factory 1100の参加が認められ、関連する規則の改定

① 特別申請車両 該当規則：ST1000 技術仕様 1 出場車両

1 出場車両

一般生産型モーターサイクルで、一般市販価格300万円（国産車両、消費税含まず）、または350万円（外国産車両、消費税含まず）以下のMFJ公認車両でなければならない。

なお、ST1000クラスに特別申請車両として以下の車両が参加することが許可される。

- ・ aprilia RSV4 Factory 1100 (2021モデル)

この車両には、「3 最低重量」に追加規則が適用される。

また、必要に応じて随時技術仕様の追加及び変更など見直しが行われる場合がある。

3 最低重量

3-1 各気筒数別車両の最低重量は以下のとおりとする。

Aprilia RSV4 Factory 176 k g

4 音量

4-1-6 音量測定 of 固定回転数と音量値

エンジン型式および排気量ごとに、エンジンストロークはほぼ同等と見なされるので、測定は下記固定回転数にて実施する。

音量規定値は、105dB/A以下とする。レース終了後は3dB/Aの許容誤差が認められる。

Aprilia RSV4 Factory 1100は、6,000rpmが適用される。

7-3-22            フュエルインジェクション

7-3-22-5-1   公認車両申請メーカーおよび関連会社が製作販売するECU（フル・コンピューター）。  
メーカーキットECU

ECU 販売元	部品名	ECU 型式	部品番号	認識番号（記号）
aprilia racing	SST APX2	APX2	COE11018	COE11018

② 部品の互換性   該当規則   : ST1000   8部品の互換性特別申請

8 部品の互換性特別申請

車両メーカーから申請された部品についてMFJで審議し、互換性が承認された場合、その内容の範囲内で使用が認められる。承認された内容は、MFJホームページ [<https://www.mfj.or.jp>] 等で告知される。

8-2            **ST1000クラスの互換性**

**車種            : BMW・M1000RR／2021年モデル**

**互換の部品 : 前後ホイール**

**互換の内容 : BMW M1000RR／2021年モデルにBMW M1000RR／2023年スタンダードモデルのアルミホイールを互換性部品として取り付けることを認める。**

**ただし、2023年スタンダードモデルに2021年モデルカーボンホイールを取付けることは許可されない。**

1 4) JP250 技術仕様

7-3-18   クラッチ

7-3-18-2   **クラッチ・バスケット（アウター）は交換、改造しても良い。**

・ ホンダ CBR250RR   該当規則   :

7-3-3-12   **CBR250RRは、新旧の公認車両モデル間で、フロントフォーク左右アッセンブリーでの互換が許可される。**

・ ヤマハ・YZF-R3   エアクリナー   該当規則   : 7-3-29   エアクリナー

7-3-29-1-6 ヤマハYZF-R3、KTM RC390についてはラム圧の追加およびエアクリナーボックスの改造は禁止される。エアフィルター・エレメントおよび吸気ダクトは変更または改造、あるいは取り外すことが認められる。

・・・中略・・・

**ヤマハYZF-R3は、公認車両のエアクリナーボックスの吸気口の位置を基準に、吸気口の面積を下記の寸法まで拡大することを許可する。**

**ヤマハYZF-R3   直径70mm相当の面積**

・ Ninja ZX-25R   エアクリナーに関する追記   該当規則   : 7-3-29   エアクリナー  
該当規則   : 7-3-29-2   ラムダクト（ラム圧）付きの車両（該当車両CBR250RR／ZX-25R）



7-3-29-2-1 エアクリーナーボックス、ラムダクトおよび吸気ダクト、エアファンネルをMFJが公認した車両の状態に維持しなければならない、変更または改造は許可されない。

エアフィルター・エレメントは変更または改造、あるいは取り外すことができる。フェアリングの変更は認められるが、エアダクト取り入れ口の位置、形状、面積はMFJが公認した車両の状態を維持しなければならない。

※NinjaZX-25Rの公認車両に装備されている、カウルとラムダクトの間に取り付けられているゴム製のラムダクトシールは、カウルの一部と見なし取り外すことが認められる。

※NinjaZX-25Rのラムダクトのエアクリーナー側出口の先端を加工（カットのみ可）して、ダクト出口径を公認車両（量産）の直径（内径）32mmから直径（内径）45mm以内に拡大することを許可する。

※NinjaZX 25R新旧公認車両モデル間でエアファンネル（フィルタアッシ）の互換が許可される。

#### 4. 地方選手権 昇格に関する変更点

1 5) 九州地区ロードレース選手権について : 該当規則 付則1 および付則5 案内

九州ロードレース選手権シリーズは、2024年より HSR トロフィーロードレース選手権（HSR九州）と POLISPA ロードレース選手権（オートポリス/SPA 直入）の選手権として開催される。

1 6) ロードレースライセンスの昇格人数の変更

ロードレース国内から国際の申請昇格者対象数が変更された。図内の赤字部分のが変更箇所

該当規則 : 付則1 MFJライセンス昇格・降格に関する規則 5 ロードレースライセンスの昇格

#### 5-3-2 地方選手権

##### 申請昇格

各地方選手権（2024年11月30日まで）における JP250/J-GP3/ST600/ST1000 クラスのシリーズランキング上位者（選手権ごとに定める下表の人数）は昇格申請をした場合、昇格することができる（申請期日は2024年12月31日当日消印有効）。

ナショナル J-GP3、JP250 クラスの獲得ポイントは、総合順位（J、RF、国内）によって付与されるポイントとする。

	十勝	SUGO	筑波	もてぎ	鈴鹿	岡山	HSR	POLISPA
ST1000	1	1	1	4	4	2	1	1
ST600	2	2	3	3	5	3	1	1
J-GP3	0	1	3	0	3	1		
JP250	1	2	2	3	3	2	1	1

表記の数は、昇格対象者人数を示す。

以上